

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

平成 27 年度年次評価書

1. はじめに

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）は、国の予算を用いて実施される長期・大規模の疫学調査であり、その実施に当たっては、科学的、第三者的な観点からの評価を行うことが不可欠である。

エコチル調査においては、調査の企画及び実施内容の評価を行うため、外部の専門家からなる企画評価委員会を環境省に設置しており、同委員会において、調査の効果的・効率的な運営、目的の達成、国民・社会への成果の還元等の観点から、エコチル調査の評価を実施することとしている。

エコチル調査は、コアセンター（国立環境研究所）が実施主体となって、メディカルサポートセンター（国立成育医療研究センター）及びユニットセンターとの協働により実施しており、環境省は、本調査から得られた成果から環境政策の検討を行うこととしている。エコチル調査の実施状況の評価については、行政機関が行う政策の評価に関する法律に基づく環境省の政策評価や、独立行政法人通則法の規定に基づく国立環境研究所における業務実績評価などを含め、重層的に実施されることとなる。本評価では、同調査が長期間にわたる事業であることを鑑み、複数の中間評価、事業終了後に最終評価を行うこととし、中間評価を行わない年度においても、進捗状況に関する年次評価を毎年度行うこととしている。

平成 27 年度年次評価においては、フォローアップ・詳細調査の進捗度の点検と目標管理、個人情報を含むデータ利用の安全性確保、運営の改善、調査研究の質の向上等の観点から、以下の視点で評価を行うこととする。

- 調査実施のための組織体制の妥当性
- フォローアップの進捗状況等
- 長期的なフォローアップの準備状況
- 詳細調査の実施状況
- 個人情報管理の状況
- データ利用及び成果発表のルールの順守状況
- 研究（追加調査等）の体制及び実績
- 予算執行状況
- その他（「第二次中間評価」に対する改善状況）

2. 概評

2-1 実施体制

エコチル調査のユニットセンターは、公募で選ばれた全国 15 地域の大学等で組織されている。ユニットセンターでは、参加者から返送のあった質問票の入力、詳細調査での精神神経発達検査等の実施、参加者への広報などのコミュニケーション活動、調査結果を用いた研究活動を行っている。実施体制については、調査の目的である環境要因が子どもの健康に与える影響を解明できるように参加者の維持に努めるとともに、調査の状況、地域の実情を勘案した適切な実施体制を毎年度検討することが望まれる（表 1）。

2-2 質問票回収状況

出生後の質問票回収率は、平成 27 年 10 月 2 日現在（発送後 6 か月後）の集計では、生後 6 か月、1 歳、1 歳半、2 歳、2 歳半、3 歳で、それぞれ 94.0%、91.4%、89.1%、87.3%、85.1%、83.9%であり、全年齢を平均しても 90.2%と高い回収率を維持しており、概ね順調といえる（表 3）。しかしながら、多くのユニットセンターで参加者の子どもの年齢を重ねるごとに回収率の低下がみられる。エコチル調査の成果をより信頼性の高いものにするためには参加者数の維持及び質問票回収率を高い水準で維持することが最重要課題の一つである。そのため、各ユニットセンターは、参加者数の維持及び質問票回収率の高い水準での維持を目的とし、各地域の実情、特色を踏まえた最適な取組みを検討し、実行する必要がある。

2-3 質問票返送依頼

各ユニットセンターにおいて、質問票回収率を改善するために、様々な形でエコチル参加者に質問票の返送依頼を行っている。その依頼方法・頻度・タイミングに関しては、各地域の特色があるため、統一することは困難である。従って、今後は各ユニットセンターで実施している返送依頼の効果を定量的に分析・考察し、より効果的・効率的な返送依頼方法について検討することが必要であると考えられる（表 4）。

2-4 コミュニケーション活動

各ユニットセンターにおいて、エコチル調査参加者が参加継続してもらうために、参加者との様々なコミュニケーション活動（広報活動等）が実施されている。これまでは、コミュニケーション活動が、フォローアップ率の維持、質問票回収率向上に効果があるとされてきたが、定量的な分析・考察が不十分であった。今後は、実施したコミュニケーション活動が、参加者数、質問票回収率にどのような効果があるか定量的に分析・考察を行うことに加え、費用対効果を考慮したコミュニケーション活動のあり方を検討することが必要であると考えられる（表 4）。

2 - 5 詳細調査の実施状況

平成 27 年 4 月より、2 歳児を対象とした医学的検査、精神神経発達検査を開始している。精神神経発達検査では、コアセンター主催・メディカルサポートセンター協力の下、ビデオ・現場研修を受け、修了テストに合格した者のみが検査者として評価することが許可されているなど、評価の精度を高める取組みが行われている。今後は、詳細調査の結果返却が本格的に始まるため、各ユニットセンターにおける実施体制の強化（臨床心理士等の雇用等）やメディカルサポートセンター、コアセンター、環境省とのより一層の連携が必要になると考えられる。

2 - 6 個人情報の管理

個人情報の適切な管理については、平成 25 年 10 月 16 日に「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」が策定された。引き続き、個人情報の管理が適切であるかどうか、定期的に確認する体制を維持することが重要である（表 5）。

2 - 7 地域運営協議会の実施状況

各ユニットセンターが関連組織と良好な関係を構築・維持することは、今後の調査を円滑に継続するために必要不可欠であると考えられる。これまでは、各ユニットセンターにおいて、地域の医療機関を主としたメンバー構成で地域連携協議会を定期的に運営してきたが、今後は、詳細調査の結果返却対応が始まることやエコチル調査参加者が学童期へとシフトすることから、自治体の環境部局等や幼稚園、保育園、小中学校等の教育関係機関等と連携をとることが望ましいと考えられる。

2 - 8 その他

第二次中間評価書における指摘事項については、各機関において対応の努力が行われている。

3. 実施機関別評価

3 - 1 環境省

エコチル調査の成果を継続して収めるためには、長期間にわたる予算と体制の確保が不可欠である。予算に関しては、当初予算及び補正予算で調査を実施しているが、当初予算で完結するような安定した予算確保が必要であり、そのための努力を継続して行うべきである。また、平成 28 年度の化学分析にかかる費用については、研究成果を早期に得られるよう平成 27 年度と同規模の予算が確保されることを期待する。

予算・体制の確保、参加者数の維持、質問票回収率の向上のために、エコチル調査に関する国民の認知度・理解度・共感度の向上が極めて重要であることは言うまでもない。平成 27 年度までの過去 5 年間の広報活動に対する効果等を評価し、今後の広報活動の検討に反映させるべきである。

科学コミュニケーションの手法を用いたエコチル調査結果の国民への理解促進を行うため、継続的にシンポジウムを開催するとともに、エコチル調査の更なる認知度・理解度向上のため、メディア報告会等を通じた広報活動を積極的に行う必要がある。

諸外国の専門家から本調査における今後の運営の参考となる助言をもらうことを目的とした国際アドバイザリーボード会合をエコチル調査として初めて平成 27 年度に開催したが、このような機会を設けたことは評価できる。「大規模出生コホート調査に関する国際作業グループ」への参加を行う等、今後も他国の出生コホート調査との連携を図ることが期待される。

平成 28 年度の各ユニットセンターへの予算配分にあたっては、各ユニットセンターに個別にヒアリングを行い、各ユニットセンターの特色、実情、本評価書における評価を勘案した予算配分が行われるよう配慮すべきである。

参加者が学童期に入ることから、今後、教育的視点から学校関係者から協力を得ることが重要となってくる。そのため、文部科学省、小児関連団体等との情報共有を引き続き進め、より一層の連携を図るべきである。

3 - 2 コアセンター

エコチル調査の実施主体として、全国のユニットセンターとの緊密な連携を図りながら全体をとりまとめており、今後もそのような取組が継続されることが期待される。

参加者が 6 歳になるまでの研究計画は概ね策定されているが、それ以降の参加者の成長に応じた研究計画を早急に立案するべきである。また、化学分析の分析項目についても早急に分析計画を策定し、効率的・効果的に化学分析が実施されることが望まれる。

質問票回収率の維持向上、調査参加の継続のために、フォローアップ率が高かった他の出生コホート調査のノウハウ等を調査し、ユニットセンター実務担当者 web 会議及びスタッフ研修の開催などを通して情報提供を行うとともに、コアセンターにおいても参

加者の維持に資する取組を検討すべきである。

エコチル調査の全体調査についての成果発表については、コアセンターを中心として、論文の質が担保できるよう、体制の構築を早急に行うべきである。

エコチル調査の成果を効果的にするためには参加者の維持が必須である。そのため、参加者数の推移については継続的に把握する必要がある。

詳細調査の結果返却及び相談対応について引き続きメディカルサポートセンターと連携しつつ、各ユニットセンターに応じたフォローを行うことが望まれる。

エコチル調査で得られた成果が諸外国にも通用するようなものとなるように、成果のまとめ方及び論文の質の担保ができるような専門家の配置等の検討も行うべきである。

ユニットセンターにおける参加者の個人情報の管理についてはユニットセンターの個人情報の管理状況がより一層、適切に行える体制を構築できるよう、検討するべきである。

3 - 3 メディカルサポートセンター

精神神経発達検査については、全国のユニットセンターを訪問して検査者に直接指導を行うなどをし、検査の標準化にむけた取組を行っており、評価できる。

学童期に入った参加者に対する質問票送付時期などの調査方法を検討しており、参加者が調査を続ける上で負担が少なく、実施可能な手法が確立されることを期待したい。

各ユニットセンターにおいて、詳細調査の結果返却の際、臨床心理士等の専門家のいないユニットセンターをバックアップする体制を維持強化することが望まれる。

平成 29 年度から 4 歳時の医学的検査及び精神神経発達検査が始まることから、ユニットセンターへの研修や、専門家の配置の可能性等の検討を早期に行い、調査が円滑に行われることが望まれる。

エコチル調査の全体調査の成果発表については、論文の質が担保できるような体制構築をコアセンターと協働して検討することが望まれる。

3 - 4 ユニットセンター

質問票回収率については、客観的指標である統計値（平均値、標準偏差）を用いて、相対評価を行った。質問票返送依頼、コミュニケーション活動、研究実績等は、事前に行った各ユニットセンターへのヒアリングで得られた情報を基に評価を行った。

北海道ユニットセンター

北海道ユニットセンターは、札幌サブユニットセンター、旭川サブユニットセンター、北見サブユニットセンターで構成されている。北海道ユニットセンターで、3つのサブユニットセンターの全体調査の謝金、経理、庶務、広報（イベント等）の検討等を行っていることから、サブユニットセンター毎での評価ではなく、北海道ユニットセンター全体としての評価を行った。

フォローアップ状況

質問票回収率：A

質問票回収率は90.8%と全体平均よりやや高い。

質問票返送依頼

1回目：ハガキ、2回目：電話、3回目：ハガキによる返送依頼及び乳幼児健診における声かけを実施している。これらの取組の前後で、質問票回収率が8.6～19.3%向上したと分析しており、効果検証もあわせて行っていることは評価できる。今後もより適切な返送依頼方法・回数・依頼するタイミングの検討を続けることが望まれる。

コミュニケーション活動

「写真撮影会&子育てインタビュー」、「親子で参加できるファミリーコンサート」等の参加型イベントを開催しており、ユニットセンター職員と参加者が対面でコミュニケーションできる場として活用できている。また、他団体開催のイベントにも参加し、イベントの参加者からはイベント内容について高い満足度が得られている。今後はイベントなどのコミュニケーション活動について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況：A

個人情報管理状況については「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

その他

- ・ 北海道ユニットセンターではエコチル調査で雇用している研究者数が全ユニットセンターの中で最大規模である。ユニットセンターとして調査が円滑に実施できるよう、北見サブユニットセンター及び旭川サブユニットセンターのフォローを引き続き行うことが望まれる。
- ・ 医学的検査の実施の際、気温の低い地域であるため、採血が難しい（血管が収縮し、血管に針が刺さらない・注射時の痛みでお子様が泣いてしまう）ことがあった

が、採血前に温かいタオルで部位を温めてから採血を実施するなど、効率的に調査を行うための工夫がみられる。

- ・ 地域運営協議会に関しては、札幌・旭川・北見の3地域で開催している。それぞれ地域では、健康・福祉系に加えて、教育系のメンバーが地域運営協議会に参加している。今後は環境系への働きかけが望まれる。

宮城ユニットセンター

フォローアップ状況

質問票回収率：C

質問票回収率は85.5%と全体平均以下であり、全体的な回収率の底上げが求められる。

質問票返送依頼

1回目：ショートメール、2回目：ショートメール、3回目：ハガキによる返送依頼及び保育所・幼稚園の父母会での声掛けを実施している。また、これらに加え、質問票発送時期の直前に返送を促す文書を発送する取組も行っている。これらの取組を行ったところ、質問票回収率が2~3%向上したとのことから、こうした質問票返送率向上に繋がる取組を自主的かつ積極的に実施し、その効果を検証している点は評価できる。今後、これらの取組を通して、質問票回収率の底上げが期待される。

コミュニケーション活動

談話会などのイベントを開催し、イベントの満足度についてのアンケートを実施している。今後はイベントなどのコミュニケーション活動との効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報管理状況：A

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

その他

- ・ 地域運営協議会に関しては、4地域で開催している。それぞれ地域で、健康・福祉系、環境系、教育系のメンバーが地域運営協議会に参加している。
- ・ 精神神経発達検査では、東北コホートの経験を活かし、コアセンターや他のユニットセンターへのアドバイスをっており、中核的な存在となっている。

福島ユニットセンター

フォローアップ状況

質問票回収率：A

質問票回収率に関しても、93.7%と全体平均よりも高い。

質問票返送依頼

1 回目： ショートメールまたは電話、2 回目：ショートメールまたは電話またはハガキによる返送依頼と市町村に乳幼児健診における声かけ依頼を実施している。これらの取組を行うことにより、回収率が 10% 程度向上したと分析しており、効果検証もあわせて行っていることは評価できる。また、質問票返送があった方に対して、メールまたは電話でお礼の連絡をするなど丁寧に対応できている。現在、返送依頼方法についても試行しており、その結果については精査中であるとのことなので、早期に分析を行い、今後の返送依頼方法に活かすことが期待される。

コミュニケーション活動

参加者に対する広報活動を定期的実施することで、エコチル調査の定期的なりマイインドが出来ていると考えられる。また、福島ユニットセンターが主催する「子育て講演会&コンサート」や「エコチルふれあい会」では、参加者とユニットセンター職員、参加者同士の対面コミュニケーションをとる場として活用されている。今後はイベントなどのコミュニケーション活動との効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況：A

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

その他

- ・ 地域運営協議会については、健康・福祉系、環境系、教育系のメンバーが地域運営協議会に参加しており、その参加率も高い。
- ・ 福島全県が対象地域となっており、エコチル調査参加者が全ユニットで最も多いユニットとして、適宜体制を見直すなど努力や工夫を重ねている。
- ・ 学内の協力体制として、倫理委員会（大学事務局）、英文校正（外国語講座）、統計学的解析（公衆衛生学講座、疫学講座）を置き、研究をサポートする体制をとっている。
- ・ 「中心仮説ワークショップ」への積極的な参加が見られ、全県下での実施、運営とともに研究活動への積極的姿勢も伺える。

千葉ユニットセンター

フォローアップ状況

質問票回収率：B

質問票回収率は 90.0%と全体平均をやや下回っているため、改善が必要である。

質問票返送依頼

1 回目：ハガキ、2 回目：電話またはショートメール、3 回目：手紙による返送依頼とイベント時に返送依頼の声かけを実施している。これらの取組を 1 年継続したことにより、回収率が 3.7~10.2% 増加したと分析しており、効果検証もあわせて行ってい

ることは評価できる。

コミュニケーション活動

参加者に対する広報活動の定期的な実施並びに多数のエコチル調査が参加できるイベントを開催することで、エコチル参加者への定期的なリマインドや対面でのコミュニケーションを図っている。今後はイベントなどのコミュニケーション活動との効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況：A

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。また、監視カメラの設置、個人情報を扱う執務室の自動施錠など個人情報の管理を徹底するための自主的な取組みは評価できる。

その他

- ・ 地域運営協議会に関しては、今後は、環境系・教育系への働きかけが望まれる。
- ・ 調査地域とユニットセンターが離れているが、参加者及び地域の関係者等とのコミュニケーション方法について工夫を重ねている。

神奈川ユニットセンター

フォローアップ状況

質問票回収率：A

質問票回収率は91.8%と全体平均より高い。

質問票返送依頼

1回目：ハガキ、2回目、3回目：電話またはショートメールによる返送依頼を実施している。これらの取組と質問票回収率の関係を定量的に検証したところ、10%程度質問票回収率が向上しており、評価できる。

コミュニケーション活動

神奈川ユニットセンターでの調査結果を記載したニュースレターの発行並びにイベントの開催によって、参加者とのコミュニケーションを行っている。今後はこれらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況：B

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制が概ねできているが、一部に改善が必要な点がある。

その他

- ・ フォローアップ数が同規模のユニットセンターと比較して、職員の数が格段に少なく、効率的な業務運営をしている点は高く評価される。今後を見据えて実施体制、業務負担の配分等の検討を行なうことも必要と考える。

- ・ 地域運営協議会に関してはエコチル調査参加者にも参加してもらい、積極的な意見交換をしている。健康・福祉系のメンバーのみで構成されているため、今後、環境系・教育系への働きかけが望まれる。
- ・ 中心仮説のワーキンググループにも積極的に取り組んでいることから、今後の研究活動を積極的に行うことが期待される。

甲信ユニットセンター

フォローアップ状況

➤ 甲信ユニットセンター

質問票回収率は 89.4%と全体平均を下回っているため、改善が必要である。

➤ 甲信ユニットセンター（山梨大学）

質問票回収率：C

質問票回収率は 86.5%と全体平均を下回っており、全体的な回収率の底上げが求められる。

質問票返送依頼

1 回目：ショートメール、2 回目：はがきによる返送依頼とイベント時に質問票回収窓口を設置し、参加者への声かけを実施している。これらの取組みに関して、ショートメールの送信数あるいははがき発送数と、その後の回収率の変化をモニタリングし、返送依頼の効果を定量的に分析している点は評価できる。また、継続的に質問票を返送してもらえるような取組も行っている。過去の経験より、電話による依頼は実施しない方針としているが、今後も返送依頼の方法については他の要因を含め幅広く検討をすることが望まれる。

コミュニケーション活動

定期的なニュースレターの送付や、各種イベントを行うなどのコミュニケーション活動を展開している。また、イベント時は参加者に対してイベント満足度などのアンケートを行っている。今後はこれらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

➤ 甲信サブユニットセンター（信州大学）

質問票回収率：S

質問票回収率は 94.6%と全体平均と比較して非常に高い。

質問票返送依頼

1 回目：電話、2 回目：電話、3 回目：はがきによる返送依頼と 3 歳児健診で声かけを行っている。参加者とコミュニケーションすることに重点を置いた取組をおこない、丁寧な参加者への対応を行っている。また、これらの取組と質問票返送率との関係を検証し、その結果をスタッフと情報共有し、課題を検討する機会を設けていることも評価できる。

コミュニケーション活動

親子で参加できる体操や英会話のイベントを開催し、その満足度についてのアンケート調査を行っている。今後はこれらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。また、ユニットの実施体制としてリクルート時から同じスタッフが参加者のフォローを行っているため、参加者と良好なコミュニケーションが継続している。

個人情報の管理状況

➤ 甲信ユニットセンター

ユニットセンター全体として、「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

➤ 甲信ユニットセンター（山梨大学）

個人情報の管理状況：A

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

➤ 甲信サブユニットセンター（信州大学）

個人情報の管理状況：A

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

その他

➤ 甲信ユニットセンター（山梨大学）

- ・ 地域運営協議会については、健康・福祉系、環境系、教育系のメンバーが地域運営協議会に参加している。
- ・ 中心仮説ワークショップへの積極的な参加がみられ、研究への取組みも評価される。

➤ 甲信サブユニットセンター（信州大学）

- ・ 地域運営協議会については、健康・福祉系、環境系、教育系のメンバーが地域運営協議会に参加している。

富山ユニットセンター

フォローアップ状況

質問票回収率：A

質問票回収率は93.5%と全体平均より高い。

質問票返送依頼

1回目～3回目：ショートメールまたはハガキによる返送依頼を実施している。返送依頼方法や時期の検討を行うだけでなく、その効果を検証しており評価できる。

コミュニケーション活動

広報活動を精力的に行うとともに、各種体験型イベントを行い、ユニットセンター職員と参加者が対面コミュニケーションをとる場として、活用している。また、イベント告知や粗品配布と質問票回収率との関連について定量的に検証している点は評価できる。

個人情報の管理状況：C

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた管理体制が概ねとられていたが、漏洩のリスクを高める事案があった。今後、これまで以上に情報セキュリティに対する全スタッフの意識の向上及び基本ルールが周知徹底されるような取組が必要である。

その他

- ・ 地域運営協議会に関しては、今後、環境系・教育系への働きかけが望まれる。

愛知ユニットセンター

フォローアップ状況

質問票回収率：B

質問票回収率に関しては、88.0%と全体平均をやや下回っているため、改善が必要である。

質問票返送依頼

1回目：電話、2回目：ショートメールによる返送依頼と1.5、2、3歳児検診における声かけや、各種イベントにおいて、ユニットセンター職員と参加者が積極的にコミュニケーションをとっている。これらの取組と質問票回収率の関係を定量的に検証した結果、質問票回収率が平均10%程度向上したとの結果がでており、評価できる。

コミュニケーション活動

対面によるコミュニケーションを重視した活動を行っている。市が開催するイベントに参加するなど、経費をかけずに効果的なイベントが開催できるよう、工夫を行っていることは評価できる。今後はこれらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況：A

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

その他

- ・ 地域運営協議会については、今後、教育系への働きかけが望まれる。
- ・ 成果発表のルールに違反して成果発表がされた事案があるため、関係者へのルールの周知徹底と管理体制の強化が望まれる。

京都ユニットセンター

フォローアップ状況

質問票回収率：A

質問票回収率は92.4%と全国平均より高い。

質問票返送依頼

1～3回目：手紙または電話による返送依頼をしている。また、継続的に質問票を送ってもらえるような取組も行っている。

コミュニケーション活動

粗品と質問票回収率の関係について検討を行い、その効果について定量的に評価している点は評価できる。様々なイベントを開催しており、イベントの満足度についてのアンケートを行っている。今後はイベントの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況：A

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

その他

- ・ 地域運営協議会については、今後は環境系の関係者の参加への働きかけが望まれる。
- ・ 疾患情報登録調査、医学的検査を行うために、関連医療機関と新たに協力体制を構築しており、今後も必要に応じて協力体制の強化を行うことが期待される。

大阪ユニットセンター

フォローアップ状況

質問票回収率：B

質問票回収率は89.1%と全体平均を下回っているため、改善が必要である。

質問票返送依頼

1回目：ショートメール、2回目：手紙、3回目：ショートメール、4回目：電話、5回目：電話による返送依頼を行っている。参加者の年齢によって大阪大学と大阪府母子保健総合医療センター（母子センター）で返送依頼業務を分担しており、それぞれの方法・頻度・時期で返送依頼を行っていることから、相互に情報共有して、よりよい返送依頼方法の検討を行うことが望まれる。現在、返送依頼方法の効果検証を精査中であるとのことなので、早期に分析を行い、今後の返送依頼方法に活かすことが期待される。

コミュニケーション活動

ニュースレターの発行やリトミック教室などを行い、参加者とのコミュニケーション活動を行っており、その際には各種イベントの満足度のアンケート調査を実施している。今後はこれらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、そ

の効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況：A

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

その他

- ・ 地域運営協議会については、今後は、環境系・教育系への働きかけが望まれる。
- ・ 詳細調査は母子保健総合医療センターで行っている。同センターにはホスピタルプレイ士が所属し、調査に参加した子どものケアを行っている。子どもに関する専門家が多数在籍しているため、中核的な存在となっており、他のユニットセンターへの教示も行っていることは評価できる。

兵庫ユニットセンター

フォローアップ状況

質問票回収率：A

質問票回収率は90.9%と全体平均より高い。

質問票返送依頼

1回目：ハガキ、2回目：電話またはハガキ、3回：電話による返送依頼を行っている。これらの取組と質問票回収率の関係を定量的に評価した結果、回収率の向上が認められており、評価できる。

コミュニケーション活動

広報活動や数種のイベントを開催するなどコミュニケーション活動は工夫を重ねて行っており、イベントへの満足度のアンケート調査を行っている。今後は、これらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況：A

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

その他

- ・ 地域運営協議会については、今後は、教育系への働きかけが望まれる。
- ・ 調査地域である尼崎市の市長をはじめ行政との連携がとれており、今後もこの体制を維持することが望まれる。

鳥取ユニットセンター

フォローアップ状況

質問票回収率：A

質問票回収率は91.8%と全体平均以上である。

質問票返送依頼

1 回目：電話、2 回目：ショートメール、3 回目：ハガキによる返送依頼を実施している。リクルート時と同じリサーチコーディネーターが返送依頼の電話をかけたり、対象者を絞った粗品配布など、創意工夫による取組みを行っている。これらの取組と質問票回収率の定量的な評価を行ったところ、質問票回収率が平均で 1.35% 向上しており、評価できる。

コミュニケーション活動

コンサートやニュースレターによる参加者とのコミュニケーション活動を行っており、イベントの満足度等についてアンケートを実施している。今後は、これらについて参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況：A

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

その他

- ・ 地域運営協議会については、健康・福祉系、環境系、教育系のメンバーが参加しており、その参加率も高い。

高知ユニットセンター

フォローアップ状況

質問票回収率：B

質問票回収率は 87.3% と全体平均を下回っているため、改善が望まれる。

質問票返送依頼

1 回目：ハガキ、2 回目：ショートメール、3 回目：電話による返送依頼と乳幼児健診において声かけを行うなど、返送依頼を積極的に行っていると考えられる。また、返送依頼の方法・頻度を定量的に検証した結果、全年齢で平均 0.2% から 3.1% 向上したとの結果がでており、評価できる。今後も、こうした取組みを継続し、更なる回収率の向上を目指すことが望まれる。

コミュニケーション活動

様々な形でコミュニケーション活動を積極的に実施しており、イベントの満足度についてアンケート調査を行っている。今後はこれらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況：A

「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている

その他

- ・ 地域運営協議会については健康・福祉系、環境系、教育系のメンバーが参加している。
- ・ リクルートでは、目標を大きく上回って参加者を確保しており評価している。フォローアップにおいても、より高い水準を目指すことが望まれる。

福岡ユニットセンター

フォローアップ状況

➤ 福岡ユニットセンター

質問票回収率は 89.1%と全体平均を下回っているため、改善が必要である。

➤ 九州大学サブユニットセンター

質問票回収率：B

質問票回収率は 89.0%と全体平均を下回っているため、改善が必要である。

質問票返送依頼

1 回目：ハガキ、2 回目：電話による返送依頼と 3 歳児健診においてエコチルブースの設置し、質問票返送の声かけを実施している。返送があった方には直筆の手紙を送るなど、丁寧な対応を行っている。また、電話での返送依頼の有無と質問票回収率の関係を定量的に比較している点は評価できる。

コミュニケーション活動

広報活動を行うとともに、3 歳児健診を利用して参加者とのコミュニケーションを図っている。今後はこれらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

➤ 産業医科大学サブユニットセンター

質問票回収率：B

質問票回収率は 89.3%と全体平均を下回っているため、改善が必要である。

質問票返送依頼

1 回目：ハガキ、2 回目：電話、3 回目：ショートメールによる返送依頼を実施し、返送があった参加者に対して、直筆の手紙を出すなど、丁寧な対応をしている。また、返送依頼前後における各返送依頼数と回収状況を定量的に分析していることは評価できる。

コミュニケーション活動

様々な形でコミュニケーション活動を積極的に実施し、イベント時にアンケートを実施し、その結果を取りまとめている。今後はこれらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況

- 福岡ユニットセンター
ユニットセンター全体として、「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。
- 九州大学サブユニットセンター
個人情報の管理状況：A
「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。
- 産業医科大学サブユニットセンター
個人情報の管理状況：A
「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

その他

- 九州大学サブユニットセンター
 - ・ 地域運営協議会には健康・福祉系、環境系、教育系のメンバーが参加している。
- 産業医科大学サブユニットセンター
 - ・ 地域運営協議会には健康・福祉系、環境系、教育系のメンバーが参加している。

南九州・沖縄ユニットセンター

フォローアップ状況

- 南九州・沖縄ユニットセンター
質問票回収率は 89.2%と全体平均を下回っているため、改善が必要である。
- 熊本大学サブユニットセンター
質問票回収率：B
質問票回収率は 86.9%と全体平均を下回っているため、改善が必要である。
質問票返送依頼
1 回目：ハガキ、2 回目：ショートメール、3 回目：ショートメールによる返送依頼を実施し、返送依頼前後で、回収率を定量的に検証しており、最大で約 17%向上しており、評価できる。
コミュニケーション活動
様々な形でコミュニケーション活動を実施し、イベント時にアンケートを実施し、その結果を取りまとめている。今後はこれらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。
- 宮崎大学サブユニットセンター
質問票回収率：A
質問票回収率は 92.3%と全体平均より高い。

質問票返送依頼

1 回目：ハガキ、2 回目：ショートメール、3 回目：ショートメール、4 回目・5 回目：電話またはハガキによる返送依頼と乳幼児健診での声かけを実施している。返送依頼前後での質問票回収率や、乳幼児健診における声かけの効果を定量的にも分析しており評価できる。

コミュニケーション活動

様々な形でコミュニケーション活動を積極的に実施しており、イベント時にアンケートを実施し、その結果を取りまとめている。今後はこれらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

➤ 琉球大学サブユニットセンター

質問票回収率：A

質問票回収率は 90.3%と全体平均をわずかに上回っている。

質問票返送依頼

1 回目：ショートメール、2 回目：ショートメール、3 回目：ハガキ、4 回目：電話または手紙による返送依頼を実施しており、質問票の返送があった場合には直筆のメッセージを送るなど丁寧な対応をとっている。

コミュニケーション活動

イベント時に行う声かけを行っているものの、イベントの集客に苦戦している。現在、イベントの満足度等のアンケートを実施しているため、今後はアンケートを踏まえ、イベント内容の精査を行い、より多くの参加してもらえようようなイベントの企画・立案をするべきである。今後はこれらの効果について参加者数や質問票回収率にどのような関連があるのか、その効果について定量的に検証することが望まれる。

個人情報の管理状況

➤ 南九州・沖縄ユニットセンター

ユニットセンター全体として、「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

➤ 熊本大学サブユニットセンター

個人情報の管理状況：A

個人情報管理状況については、「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

➤ 宮崎大学サブユニットセンター

個人情報の管理状況：A

個人情報管理状況については、「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

➤ 琉球大学サブユニットセンター

個人情報の管理状況：A

個人情報管理状況については、「エコチル調査における個人情報管理に関する基本ルール」に基づいた適切な管理体制がとられている。

その他

➤ 熊本大学サブユニットセンター

- ・ 地域運営協議会の参加者に関しては、今後、環境系への働きかけが望まれる。
- ・ 調査地域が広範囲であるため、今後も効率よく運営する工夫を検討することが望まれる。

➤ 宮崎大学サブユニットセンター

- ・ 地域運営協議会の参加者に関しては、今後、環境系や教育系への働きかけが望まれる。
- ・ 成果発表のルールに違反して成果発表を行った事案が発生している。関係者へのルールの周知徹底とユニットセンター内での成果発表に対する管理体制の見直し求められる。

➤ 琉球大学サブユニットセンター

- ・ 地域運営協議会には健康・福祉系、環境系、教育系のメンバーが参加している。
- ・ 調査地域と事務局が離れているが、今後も効率よく運営できるような、工夫を行うことが望まれる。

審議経緯

平成 27 年 10 月 7 日 第 1 回エコチル調査企画評価委員会

平成 27 年 10 月 21 日 ~ 11 月 30 日 環境省による実地調査(日程は参考 4 参照)

平成 28 年 1 月 25 日 第 1 回エコチル調査評価ワーキンググループ

平成 28 年 2 月 17 日 第 2 回エコチル調査評価ワーキンググループ

平成 28 年 3 月 14 日 第 2 回エコチル調査企画評価委員会

平成27年度エコチル調査企画評価委員会委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏名	所属・職名
井口 泰泉	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 教授
石川 広己	日本医師会 常任理事
稲垣 真澄	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所知的障害研究部 部長
内山 巖雄	京都大学 名誉教授
衛藤 隆	一般社団法人 日本学校保健学会 理事長
岡田 知雄	日本小児保健協会 会長
庄野 文章	日本化学工業協会 常務理事
竹下 俊行	日本産科婦人科学会
田中 政信	日本産婦人科医会 常務理事
遠山 千春	筑波大学医学医療系 環境生物学 客員教授
中下 裕子	コスモス法律事務所 弁護士
藤村 正哲	子ども療養支援協会 会長
松平 隆光	日本小児科医会 会長
新村 和哉	国立保健医療科学院 院長
麦島 秀雄	日本小児科学会
村田 勝敬	秋田大学大学院医学系研究科 環境保健学講座 教授

平成27年度エコチル調査評価ワーキンググループ委員名簿

(敬称略、五十音順)

氏名	所属・職名
井口 泰泉	自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 教授
田中 政信	日本産婦人科医会 常務理事
麦島 秀雄	日本小児科学会
村田 勝敬	秋田大学大学院医学系研究科 環境保健学講座 教授

<オブザーバー>

内山 巖雄	京都大学 名誉教授
-------	-----------

実地調査ヒアリング日程

No.	日時		ヒアリング実施機関
1	10月21日(水)	13:00-16:00	神奈川ユニットセンター
2	10月22日(木)	13:00-16:00	千葉ユニットセンター
3	10月26日(月)	10:00-13:00	兵庫ユニットセンター
4	10月26日(月)	15:30-17:00	大阪ユニットセンター (大阪府立母子保健総合医療センター)
5	10月27日(火)	14:00-17:00	大阪ユニットセンター(大阪大学)
6	10月30日(金)	10:00-13:00	高知ユニットセンター
7	11月4日(水)	13:00-16:00	宮城ユニットセンター
8	11月5日(木)	13:00-16:00	メディカルサポートセンター
9	11月6日(金)	13:30-16:00	コアセンター
10	11月9日(月)	13:00-16:00	富山ユニットセンター
11	11月11日(水)	10:00-13:00	福岡ユニットセンター(九州大学サブユニットセンター)
12	11月12日(木)	14:00-17:00	福岡ユニットセンター(産業医科大学サブユニットセンター)
13	11月13日(金)	13:00-16:00	南九州・沖縄ユニットセンター (熊本大学サブユニットセンター・宮崎大学サブユニットセンター・琉球大学サブユニットセンター)
14	11月17日(火)	10:00-13:00	鳥取ユニットセンター
15	11月18日(水)	14:00-17:00	愛知ユニットセンター
16	11月19日(木)	10:00-13:00	京都ユニットセンター
17	11月19日(木)	15:00-17:00	長浜サテライトオフィス (京都ユニットセンター)
18	11月20日(金)	13:00-16:00	甲信ユニットセンター(山梨大学)
19	11月24日(火)	10:00-13:00	北海道ユニットセンター
20	11月25日(水)	9:30-12:00	甲信サブユニットセンター(信州大学)
21	11月30日(月)	14:00-17:00	福島ユニットセンター

【別 表】

表1 ユニットセンター/サブユニットセンターの従業者数、所在地・対象地域
(2015年9月末時点、ユニットセンターからのヒアリングによる)

ユニットセンター/ サブユニットセンター	従事者の構成					ユニットセンター/サブユニットセンター所在地 (現在の調査対象地域)
	総数	教員 研究員	RC	事務 職員	その他	
北海道ユニットセンター	64	35	18	11	0	札幌市 (札幌市北区及び豊平区・旭川市・北見市の一部・置戸町・訓子府町・津別町・美幌町)
宮城ユニットセンター	59	29	16	14	0	仙台市 (気仙沼市・南三陸町・石巻市・女川町・大崎市・涌谷町・美里町・加美町・色麻町・栗原市・登米市・岩沼市・亶理町・山元町)
福島ユニットセンター	60	19	23	18	0	福島市 (福島県全域)
千葉ユニットセンター	40	22	10	8	0	千葉市 (鴨川市・南房総市・館山市・鋸南町・勝浦市・いすみ市・御宿町・大多喜町・木更津市・袖ヶ浦市・富津市・君津市・千葉市緑区・一宮町)
神奈川ユニットセンター	31	20	1	10	0	横浜市 (横浜市金沢区・大和市・小田原市)
甲信ユニットセンター(山梨大学)	20	7	7	6	0	中央市 (甲府市・中央市・山梨市・甲州市・富士吉田市)
甲信サブユニットセンター(信州大学)	22	10	6	6	0	松本市 (伊那市・駒ヶ根市・辰野町・箕輪町・飯島町・南箕輪村・中川村・宮田村)
富山ユニットセンター	44	13	17	14	0	富山市 (富山市・黒部市・魚津市・滑川市・朝日町・入善町)
愛知ユニットセンター	57	27	19	11	0	名古屋市 (一宮市・名古屋市北区)
京都ユニットセンター	42	21	16	5	0	京都市 (京都市左京区・北区・木津川市・長浜市)
大阪ユニットセンター	31	4	6	10	11 ¹	吹田市、和泉市 (和泉市・岸和田市・貝塚市・熊取町・泉佐野市・田尻町・泉南市・阪南市・岬町)
兵庫ユニットセンター	31	12	8	11	0	西宮市 (尼崎市)
鳥取ユニットセンター	23	9	5	9	0	米子市 (米子市・境港市・大山町・伯耆町・南部町・江府町・日野町・日南町・日吉津村)
高知ユニットセンター	78	49	12	12	5 ²	南国市 (高知市・南国市・四万十市・梶原町・香南市・香美市・宿毛市・土佐清水市・黒潮町・大月町・三原村)
九州大学サブユニットセンター	30	7	18	5	0	福岡市 (福岡市東区)
産業医科大学サブユニットセンター	26	13	9	4	0	北九州市 (北九州市八幡西区)
熊本大学サブユニットセンター	28	12	5	11	0	熊本市 (水俣市・津奈木町・芦北町・天草市・苓北町・上天草市・人吉市・錦町・あさぎり町・多良木町・湯前町・水上村・相良村・五木村・山江村・球磨村)
宮崎大学サブユニットセンター	16	6	2	8	0	宮崎市 (延岡市)
琉球大学サブユニットセンター	13	5	1	7	0	西原町 (宮古島市)

1 医師、臨床心理士、鍼灸師、1人1人、2 医療補助員、大学職員

注) 表中の従業者数はエコチル雇用と非エコチル雇用の人員が含まれる。また、就業時間については各人で異なるがこれについては勘案していない。

表2 登録者数及び現参加者数(2016年2月現在)

ユニットセンター/サブユニットセンター	登録者数 ¹	現参加者数 ²	現参加者数 ² / 登録者数 ¹
	(子)	(子)	(子)(%)
北海道ユニットセンター	7,758	7,648	98.6%
宮城ユニットセンター	9,002	8,788	97.6%
福島ユニットセンター	12,831	12,651	98.6%
千葉ユニットセンター	5,995	5,779	96.4%
神奈川ユニットセンター	6,411	6,245	97.4%
甲信ユニットセンター(山梨大学)	4,478	4,365	97.5%
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,679	2,611	97.5%
富山ユニットセンター	5,388	5,276	97.9%
愛知ユニットセンター	5,554	5,441	98.0%
京都ユニットセンター	3,884	3,821	98.4%
大阪ユニットセンター	7,847	7,736	98.6%
兵庫ユニットセンター	5,054	5,003	99.0%
鳥取ユニットセンター	3,029	2,998	99.0%
高知ユニットセンター	6,917	6,801	98.3%
九州大学サブユニットセンター	4,566	4,466	97.8%
産業医科大学サブユニットセンター	2,943	2,921	99.3%
熊本大学サブユニットセンター	3,012	2,968	98.5%
宮崎大学サブユニットセンター	1,834	1,800	98.1%
琉球大学サブユニットセンター	863	841	97.5%
合計	100,045	98,159	98.1%

登録者数¹: 生後の調査票を1回以上コアセンター/ユニットセンターが受領した数現参加者数²: 登録者数¹から協力取りやめ及び住所不明など曝露及び結果に関わる情報を継続的に入手できなかった者を除いた数

表3 質問票回収状況（平成27年10月2日時点、発送後6か月後）

ユニットセンター/サブユニットセンター	6か月		1歳		1歳6か月		2歳		2歳6か月		3歳		総数		
	発送数	回収率 (%)	発送数	回収率 (%)	評価										
北海道ユニットセンター	7,556	93.8	6,192	91.2	4,758	90.4	3,372	89.1	2,183	86.4	1,196	83.9	25,257	90.8	A
宮城ユニットセンター	8,927	90.2	8,137	86.2	6,765	83.8	5,175	82.9	3,636	81.6	1,887	80.3	34,527	85.5	C
福島ユニットセンター	12,704	96.7	9,670	94.2	6,436	91.9	3,216	89.0	1,778	88.3	1,020	88.0	34,824	93.7	A
千葉ユニットセンター	5,547	93.5	4,776	91.5	3,970	88.8	2,998	87.1	1,952	85.6	958	84.9	20,201	90.0	B
神奈川ユニットセンター	6,294	95.2	5,222	92.6	4,134	90.0	2,925	88.4	1,801	88.5	855	88.9	21,231	91.8	A
甲信ユニットセンター(山梨大学)	4,394	92.7	3,696	87.4	2,997	84.7	2,250	82.3	1,571	80.5	910	79.2	15,818	86.5	C
甲信サブユニットセンター(信州大学)	2,612	96.9	2,135	95.5	1,706	94.0	1,206	92.9	816	91.8	468	90.2	8,943	94.6	S
富山ユニットセンター	5,288	96.6	4,421	93.9	3,561	92.4	2,672	91.7	1,867	91.2	1,050	89.3	18,859	93.5	A
愛知ユニットセンター	5,531	92.1	4,648	89.4	3,726	86.7	2,644	84.7	1,732	82.7	858	80.9	19,139	88.0	B
京都ユニットセンター	3,782	95.1	3,067	93.1	2,412	90.9	1,637	90.2	1,005	89.1	403	87.6	12,306	92.4	A
大阪ユニットセンター	7,754	93.0	6,481	90.4	5,079	88.4	3,896	86.3	2,826	84.9	1,654	82.6	27,690	89.1	B
兵庫ユニットセンター	4,924	95.0	4,330	91.8	3,519	89.9	2,667	88.4	1,829	86.6	890	83.6	18,159	90.9	A
鳥取ユニットセンター	3,014	95.1	2,554	93.1	2,093	90.9	1,545	89.0	1,058	88.4	597	86.6	10,861	91.8	A
高知ユニットセンター	6,773	91.5	5,561	88.6	4,386	85.5	3,175	84.1	2,123	83.7	1,207	79.8	23,225	87.3	B
九州大学サブユニットセンター	4,503	93.7	3,811	90.5	3,095	88.0	2,359	86.3	1,676	84.2	921	78.6	16,365	89.0	B
産業医科大学サブユニットセンター	2,883	94.2	2,420	89.5	1,924	87.7	1,453	86.2	986	84.7	546	85.2	10,212	89.3	B
熊本大学サブユニットセンター	2,966	91.6	2,528	88.7	2,043	84.8	1,512	85.9	1,026	78.8	584	80.3	10,659	86.9	B
宮崎大学サブユニットセンター	1,827	95.8	1,524	94.0	1,235	92.4	926	89.1	687	86.5	400	87.0	6,599	92.3	A
琉球大学サブユニットセンター	856	95.7	730	93.6	576	89.2	412	85.7	289	82.4	166	77.7	3,029	90.3	A
コアセンター	51	92.2	117	93.2	132	92.4	78	85.9	21	76.2	-	-	-	-	-
総計 / 平均値	98,186	94.0	82,020	91.4	64,547	89.1	46,118	87.3	30,862	85.1	16,570	83.9	337,904	90.2	-
標準偏差(SD)	-	1.9	-	2.5	-	2.9	-	2.7	-	3.9	-	3.9	-	2.5	-

質問票の回収率：全年齢の質問票送付の合計に対する、全年齢の質問票回収数の合計の割合。送付後6ヶ月経過した平成27年10月2日時点での出生後6ヶ月から3.0歳までの回収数を用いて算出した。

評価基準	
S	平均値 + 1.5SD
平均値 + 1.5SD > A	平均値
平均値 > B	平均値 - 1.5SD
平均値 - 1.5SD > C	

表4 フォローアップ活動

ユニットセンター/ サブユニットセンター	フォローアップ活動									
	質問票返送依頼					コミュニケーション活動				
	依頼方法					効果の 定量的な検証 実施: 未実施: ×	活動の有無 有り: 無し: ×	活動例	効果の検証	
ハガキ 手紙	電話	ショート メール	健診 呼びかけ	その他						
北海道ユニットセンター	2回							写真撮影会など	・イベント内容の改善や満足度に関するアンケートを実施。	
宮城ユニットセンター			2回					他団体開催イベントへの参加など	・イベント時にエコル調査やイベントに関するアンケートを実施。	
福島ユニットセンター	(いずれかの方法で2回連絡)							エコルふれあい会など	・ふれあい会等のイベントの参加者にアンケートを実施。	
千葉ユニットセンター	2回	(電話又はショートメール)						ちばエコルファミリーフェスタなど	・ニュースレターやイベントにおいて、千葉ユニットセンターの取組みに関するアンケートを実施。	
神奈川ユニットセンター		(電話又はショートメール)						感謝祭など	・粗品の満足度や、配布する粗品のアンケートを実施	
甲信ユニットセンター (山梨大学)								エコルやまなしフォーラムなど	・イベント時にエコル調査やイベントに関するアンケートを実施。	
甲信サブユニットセンター (信州大学)		2回						子ども医療相談など	・英語教室や参加者交流イベントの改善に関するアンケートを実施。	
富山ユニットセンター	2回							離乳食セミナーなど	・イベント告知と質問票回収との関連、粗品配布と回収率の効果を定量的に検証。 ・各イベントの参加者の満足度に関するアンケートの実施やイベント参加者と脱落の関係を考察。	
愛知ユニットセンター								クッキング教室など	・イベント時にエコル調査やイベントに関するアンケートを実施。	
京都ユニットセンター	(手紙又は電話で3回連絡)							エコルフェスタなど	・ハルディグッスを配布するキャンペーン以降の回収率をモニタリングし、その効果を検証している。 ・参加者全員を対象に、各コミュニケーション活動に関する内容に関してアンケートを実施。	
大阪ユニットセンター		2回	2回			×		リズム教室など	・イベント時にエコル調査やイベントに関するアンケートを実施。	
兵庫ユニットセンター	(いずれかの方法で3回連絡)							ヨガ教室など	・イベント時にエコル調査やイベントに関するアンケートを実施。	
鳥取ユニットセンター								コンサートなど	・各イベント時にイベントの感想等に関してアンケートを実施。	
高知ユニットセンター								エコル調査5周年イベントなど	・各イベント時にエコル調査に関するアンケートを実施。	
九州大学サブユニットセンター								ニュースレター発行など	・特に実施せず	
産業医科大学サブユニットセンター								親子ヨガなど	・各イベント時にエコル調査、イベントの改善事項に関するアンケートを実施。	
熊本大学サブユニットセンター			2回					エコルファミリーフェスタなど	・各イベント時にイベントの感想、要望に関してアンケートを実施。	
宮崎大学サブユニットセンター		2回	2回					エコル調査5周年イベントなど	・各イベント時に効果に関して、参加者にアンケートを実施。	
琉球大学サブユニットセンター			2回			×		英語リズム&ハロウィンパーティーなど	・各イベント時にイベントの感想、要望に関してアンケートを実施。	

表5 個人情報の管理状況一覧

ユニットセンター/ サブユニットセンター	1	2		3	4	5	6	7	評価 ¹
	機密度に応じた 個人情報の管理	個人情報へのアクセス等の管理			個人情報の適正な利 用と管理	自己点検状況	個人情報に関する基 本ルールの周知に関す る取り組み		
	機密度ランクAからCの すべての存在するデー タおよび資料につい て、その所在を把握す る等、管理を適切に行 っているか。	電子化されたデータにつ いて、内蔵もしくは接続 するPCへのアクセス権を 使用者毎に設定すると ともに、ID、パスワード、生 体認証の手続き等によ り管理を適切に行っ ているか。	文書(紙媒体)に記録 された資料については、保管場所の施 錠、鍵の管理等を適 切に行っているか。		機密度に応じて定期的 に利用状況を把握して いるか。	担当組織における個人 情報管理に関する 自己点検リストを作成す るなど、個人情報管理 を適切に行っている か。	既存のルールがスタッフ全 員に周知されるような 取り組みを実施してい るか。	過去1年間に個人 情報管理に関する インシデント・アクシ デントが見られない。	
北海道ユニットセンター									A
宮城ユニットセンター									A
福島ユニットセンター									A
千葉ユニットセンター									A
神奈川ユニットセンター									B
甲信ユニットセンター(山梨大学)									A
甲信サブユニットセンター(信州大)									A
富山ユニットセンター									C
愛知ユニットセンター									A
京都ユニットセンター									A
大阪ユニットセンター									A
兵庫ユニットセンター									A
鳥取ユニットセンター									A
高知ユニットセンター									A
九州大学サブユニットセンター									A
産業医科大学サブユニットセンター									A
熊本大学サブユニットセンター									A
宮崎大学サブユニットセンター									A
琉球大学サブユニットセンター									A

評価1~6について
評価7について

○:適切な対応を実施している △:一部改善の余地有り ×:改善の余地有り
○:個人情報管理に関して、過去1年間にインシデント、アクシデントが見られない、 △:インシデントが見られた、 ×:アクシデントが見られた

- 1 A:ICJL調査個人情報管理のルールに則って運用されている。(1~7の項目においていずれも○である)
B:ICJL調査個人情報のルールに則って概ね運用されているが、一部改善の余地がある。(1~6の項目においていずれかに△が含まれる)
C:ICJL調査個人情報のルールに則って運用されているまたは概ね運用されているが、実際に個人情報管理の上でインシデントがあった。(7の項目で△の場合)。
D:ICJL調査個人情報のルールに則って運用されていない項目がある場合、または、実際に個人情報管理の上でアクシデントがあった場合のいずれかが当てはまる。(1~7の項目で×が1つでも含まれる場合)。

表6 研究への取組み

ユニットセンター/サブユニットセンター	中心仮説ワークショップへの参加状況			論文の成果発表状況			成果発表 ルールの 遵守状況 1	学会発表	
	1回目 (人)	2回目 (人)	総数	全国調査	追加調査			国際 2	国内 3
					査読有り	査読無し			
北海道ユニットセンター	6	10	16	0	0	0	0	0	25
宮城ユニットセンター	2	1	3	1	2	3	5	4	15
福島ユニットセンター	5	6	11	0	0	0	0	1	5
千葉ユニットセンター	2	2	4	0	1	0	1	6	9
神奈川ユニットセンター	7	10	17	0	0	0	0	0	0
甲信ユニットセンター(山梨大学)	4	4	8	1	0	0	0	0	10
甲信サブユニットセンター(信州大学)	1	1	2	0	0	0	0	0	3
富山ユニットセンター	2	3	5	0	3	0	3	0	17
愛知ユニットセンター	3	2	5	0	1	0	1	×	4
京都ユニットセンター	4	4	8	0	2	0	2	1	18
大阪ユニットセンター	5	5	10	0	0	0	0	0	0
兵庫ユニットセンター	1	2	3	0	0	0	0	0	2
鳥取ユニットセンター	2	2	4	0	0	0	0	2	27
高知ユニットセンター	3	4	7	0	0	0	0	1	18
九州大学サブユニットセンター	1	1	2	0	0	0	0	0	1
産業医科大学サブユニットセンター	2	1	3	0	1	0	1	1	4
熊本大学サブユニットセンター	3	4	7	0	0	0	0	0	1
宮崎大学サブユニットセンター	1	0	1	0	0	0	0	×	0
琉球大学サブユニットセンター	1	1	2	0	0	0	0	0	0

1 :ルールに沿った運用ができている、×:ルール違反があった

2 国際学会で発表(口頭、ポスター)した数

3 国内学会で発表(口頭、ポスター)した数

全国調査で得られたデータを用いた論文であり、国際学術誌に掲載(2015年9月30日までにアクセプト)された数

追加調査の論文で国内又は国際学術誌に掲載(2015年9月30日までにアクセプト)された数